

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	ブドウ球菌菌血症患者におけるメチシリン耐性遺伝子迅速 PCR 検査 (Film Array®) 導入前後の DASC/DOT を用いた抗菌薬適正使用の評価
所属科*	薬剤部
研究責任者*	竹内 裕理佳
研究実施期間	開始 西暦 2026 年 1 月 10 日 ~ 終了 西暦 2026 年 4 月 30 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	(67 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2022 年 11 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 12 月 31 日
研究概要*	【目的】 抗菌薬の狭域化は、不必要な広域抗菌薬の使用を減らし、抗菌薬適正使用において重要である。days of antibiotic spectrum coverage (DASC) を days of therapy (DOT) で除した DASC/DOT は、抗菌薬スペクトラムの狭域化を評価するのに有効である。また、当院では Film Array® を 2023 年 11 月に導入して以降、血液培養が陽性となってから約 1 時間でメチシリン耐性遺伝子の有無を判定することができる。今回、DASC/DOT を用いて、Film Array® を活用した AST 介入が抗菌薬の狭域化に与える影響を調査した。 【方法】 調査期間は Film Array® 導入前の 2022 年 11 月～2023 年 10 月と導入後の 2025 年 1 月～12 月とした。カテーテル感染を疑われ、かつ、血液培養 2 セットよりブドウ球菌を疑う GPC の発育があった症例を対象とした。患者診療録より使用された抗菌薬の種類や期間について後方視的に調査を行い、DASC/DOT を算出し、導入前後で比較した。 【結果】 対象症例数は Film Array® 導入前は 35 例、導入後は 32 例であった。DASC/DOT 比の中央値が、導入前は 5.61、導入後は 5.24 と 6.6% 減少した。メチシリン耐性の有無の群間でも、メチシリン耐性有りの症例では、6.00 から 5.48 と 8.7% 減少、メチシリン

別紙第2号様式

	EGFR 抗体薬に伴う蕁麻疹様皮疹予防を目的とした処方が多くを占めた。介入後、LVFX の DDDs は 391 と減少し、泌尿器科における Access 抗菌薬の使用割合は 22.9%から 39.3%に増加した。また外科における MINO の使用割合は介入 1 か月で 11.4%と減少し、DOXY は 88.9%と増加した。 【考察】AST による診療科ごとへの個別的な介入により Access 抗菌薬へのシフトが促進されたと考えられる。ローカルデータ提示や代替薬提案が処方行動変容に寄与した可能性がある。一方で、治療上 Watch 抗菌薬の使用が不可避な診療科も存在し、診療科特性に応じた介入の重要性が示唆された。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	薬剤部 山本 諭

*記入必須項目